

令和元年度 地域支援セミナー

テーマ 「目指せ 令和の共生社会を」～昭和・平成の時代を土台に～

日本の指している「共生社会」は現在何合目まで達しているのでしょうか。

障害者基本法の目的には、『全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現する』と謳われています。また、措置制度から契約制度になり、障害福祉サービスの充実が図られるとともに、障害のある方の地域生活を支えるサービスの選択肢も豊富に用意されるようになりました。

1989（平成元）年に働く障害者の住まいとして創設された障害者グループホームは、30年以上が経過し、今や全国で10万人を超える人達が利用しています。さらに、どんなに障害の重い人でも、高齢の人でも利用できるよう、日中サービス支援型グループホームの創設や居宅支援の充実が図られています。

本セミナーでは冬季パラリンピック金メダリスト（アルペンスキー）の大日方邦子氏より「誰もが参加可能な共生社会の実現」をテーマにご講演いただくとともに、時代に先駆けて障害者の地域生活を支える取り組みを実施してきた小林繁市氏を迎え、昭和・平成の障害福祉を振り返り、共生社会の実現に向けた方法を模索し、深めたいと考えております。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

主催	公益財団法人 日本知的障害者福祉協会 地域支援部会
日程	令和元年 11月20日（水）・21日（木）
会場	ホテルグリーンタワー幕張（千葉県千葉市美浜区ひび野 2-10-3）
対象	障害児・者の地域支援に携わる関係機関職員等
定員	350名
参加費	研修会 会員：12,000円 一般：15,000円 情報交換会 7,000円（任意参加・立食形式）

日程表

第1日目 11月20日（水）

12:30 13:00 13:10 14:20 15:20 15:40 17:30 18:00

受付	開会式	講演①	講演②	休憩	シンポジウム	終了・移動	情報交換会
----	-----	-----	-----	----	--------	-------	-------

第2日目 11月21日（木）

9:00

12:00

第1分科会：重度者・高齢者に対応した共同生活援助事業 第2分科会：チームアプローチによる地域支援 第3分科会：障害福祉人材の確保・育成	終了
---	----

（※諸事情により、プログラム・登壇者を変更する場合があります）

第1日目

11月20日(水)

13:00~13:10

I 開会式

13:10~14:20

II 講演 ①

「誰もが参加可能な共生社会の実現」(仮題)

大日方 邦子 氏

(株式会社電通パブリックリレーションズ営業推進局 オリンピック・パラリンピック部 シニアコンサルタント)

プロフィール

1972年東京生まれ。3歳の時に交通事故により負傷。右足切断、左足にも障害が残る。

現在は義足と車いすを活用して、極めてアクティブな日常生活を送っている。

高校2年の時にチェアスキーと運命的に出会い、スキーヤーとして歩み始める。

1994年、リレハンメルパラリンピックでは初出場ながら5位入賞。

1996年、NHKにディレクターとして入局。主に教育番組の制作を担当。

1998年、長野パラリンピックでは冬季パラリンピック日本人初の金メダルを獲得。

2006年、トリノパラリンピックで自身2つ目の金メダルを獲得。

2007年、競技に専念できる環境を求めて(株)電通パブリックリレーションズに転職。

2010年、バンクーバー大会に5大会連続出場を果たし、2つの銅メダルを獲得。

パラリンピックで獲得したメダル数は通算10個(冬季パラリンピックでは日本人最多獲得記録)

電通パブリックリレーションズ社員として、公職活動に従事しつつ、スポーツを取り巻く社会環境の改善に取り組む他、「誰もが安心して生きられる社会」を目指し、多様性を許容できる社会の普及に資する活動にも取り組んでいる。平昌2018パラリンピック冬季競技大会では、日本選手団の団長を務めた。

14:20~15:20

III 講演 ②

「昭和・平成を振り返って、これからの障害福祉を語る
～後輩達への伝言～」

小林 繁市 氏 (北海道:胆振圏域障がい者総合相談支援センターるぴなす センター長 / 相談支援部会 部会長)

15:40~17:30

IV シンポジウム

「目指せ 令和の共生社会を ～昭和・平成の時代を土台に～」

シンポジスト

小林 繁市 氏 (北海道:胆振圏域障がい者総合相談支援センターるぴなす センター長 / 相談支援部会 部会長)

八谷 重之 氏 (静岡県:社会福祉法人明和会 理事長)

熊谷 かの子 氏 (愛知県:社会福祉法人あさみどり会 わらび福祉園 施設長)

進行

山崎 千恵美 氏 (北海道:社会福祉法人 NIKORI 統括施設長 / 地域支援部会 部会長)

18:00~

V 情報交換会 (任意参加)

第1分科会

重度者・高齢者に対応した共同生活援助事業

「共に地域で支えよう！重い障害のある方・高齢の障害者の暮らしを」

どんなに重い障害があろうと、どんなに歳を重ねようとも、「住み慣れた地域にずっと住み続けること」は誰しもの願いです。そんな願いを叶えるため、私たち支援者は日々悩みながらも地域での生活の実現に向けて奮闘しています。

本分科会では、重度者・高齢障害者を地域で支え続けるために、地域福祉、私たち支援者に求められている役割について考えます。

9:00～10:45

実践発表

発表①「地域生活において意思決定を活かす支援」

発表者：塩野 真氏（石川県・生活支援センター雪見橋 事務長）

発表②「重度・高齢になっても住み慣れた場所で暮らしたい！

～本人の想いを叶えるための多職種協働での取り組み～

発表者：北口 寿雄氏（北海道・グリーンパーク北ひろ 所長）

発表③「障害者を取り巻く環境、高齢化する中で私たちが今、取り組むこと」

発表者：廣島 嘉一氏（福井県：坂井市市民福祉部社会福祉課 主任）

11:00～12:00

意見討論

テーマ「共に地域で支えよう！重い障害のある方・高齢の障害者の暮らしを」

コーディネーター

巽 修二氏（福井県：ライフかすみ 管理者／地域支援部会 北陸地区代表）

全体進行

山崎 千恵美氏（北海道：社会福祉法人 NIKORI 統括施設長 / 地域支援部会 部会長）

第2分科会

チームアプローチによる地域支援

「地域生活支援の連携の在り方と今後の方向性を考える」

障害のある方が住み慣れた地域社会で安心して暮らし続けるためには、様々な社会資源を活用し、様々な組織や機関が連携を図り、切れ目のない支援を提供することが必要です。

本分科会では、それをどのように実現していくか、今後の方向性について考えます。

9:00～10:00

基調報告

「地域生活支援の連携と今後の方向性」（仮題）

高橋 邦彦氏（厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課 地域生活支援推進室 室長補佐）

10:10～12:00

シンポジウム

テーマ「地域生活支援の連携の在り方と今後の方向性を考える」

シンポジスト

河原 雄一氏（神奈川県：星谷学園 施設長／日本知的障害者福祉協会 政策委員会 委員長）

菊本 圭一氏（日本相談支援専門員協会 代表理事）

助言者

高橋 邦彦氏

進行

石本 伸也氏（香川県：もえぎの里支援センター 管理者／地域支援部会 四国地区代表）

第2日目

11月21日(木)

第3分科会

障害福祉人材の確保・育成

「地域支援の福祉人材確保は働くことを通じての豊かさの実感から」

福祉人材の確保は、さらなる福祉サービスの「量」と「質」の担保に必要不可欠ですが、現在、福祉の現場では人材不足が極めて深刻な問題となっています。

生産年齢人口の減少や他業種への人材流出も懸念されるなか、将来の担い手たる若者や学生に「選ばれる」福祉の職場への転換をはかるとともに、女性や高齢者等の潜在的な労働力の確保も必要です。

本分科会では福祉人材の確保にフォーカスし、議論します。

9:00~10:30

講演

「福祉人材の確保と育成について」(仮題)

坂本 宗庸 氏 (株式会社リクルートキャリア HELPMAN JAPAN グループ)

10:40~11:30

実践報告

「地域生活支援者養成研修と世話人確保支援事業の実践」

丹下 靖 氏 (愛知県:社会福祉法人あさみどりの会 共同生活援助事業所 総括主任)

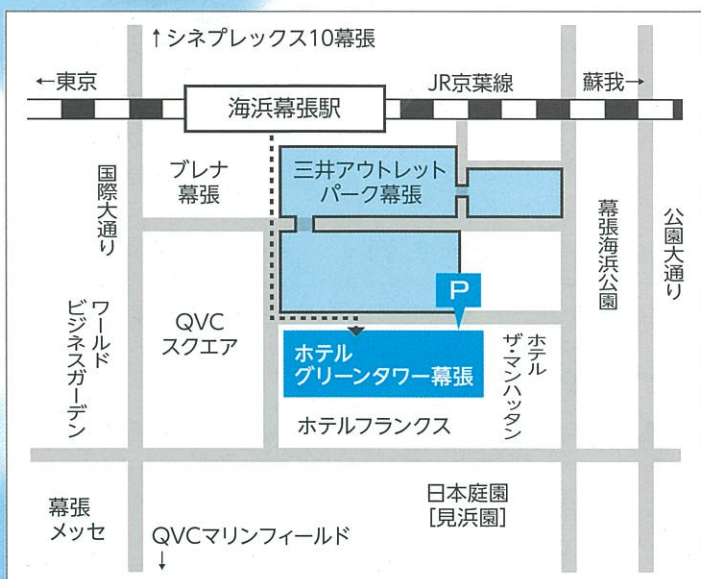
11:30~12:00

パネルディスカッション・参加者との意見交換

進行

渡部 等 氏 (愛知県:愛光園地域居住サポートセンター センター長/地域支援部会 副部会長)

【会場案内図】



【電車でのアクセス】

「海浜幕張駅」南口より徒歩 3分

◎ JR「東京駅」より快速で約 35分

◎ JR 京葉線「舞浜駅」より快速で約 20分

【羽田空港からのアクセス】

リムジンバスで約 60分

(千葉中央駅行「ホテルグリーンタワー幕張」下車)

【大会内容に関するお問い合わせ (大会事務局)】

日本知的障害者福祉協会事務局 (山本・三浦)

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 KDX 浜松町ビル 6階

TEL: 03-3438-0466 FAX: 03-3431-1803